

令和2年度

第2回岩沼市総合教育会議

議事録

1. 招集日時 令和2年12月17日(木)午後3時00分
2. 招集場所 岩沼市役所 1階 大会議室
3. 議 題 (1) 令和3年度重点的に取り組む教育施策について
(2) 教育委員会の課題について
・不登校対策
4. 出席者 菊地啓夫市長、百井崇教育長、佐藤雅晴教育長職務代理者
小林修子委員、南館公雄委員、氏家真由美委員
5. 出席補助職員
鈴木隆夫副市長、星幸浩総務部長、新妻敏幸市民経済部長
高橋広昭健康福祉部長、菅原伸浩建設部長
石垣茂教育次長兼教育総務課長事務取扱、矢口晃参事兼学校教育課長
沼田輝明生涯学習課長兼スポーツ振興課長、遠藤大輔政策企画課長
6. 欠席委員 なし
7. 傍聴者 5名
8. 本会議の書記
山下真理子教育総務課主幹兼総務係長
鈴木琴美教育総務課主査
9. 開会 午後3時00分
10. 閉会 午後4時25分
11. 議事録署名人
南館公雄委員
12. 事務局職員
石垣茂教育次長兼教育総務課長事務取扱
山下真理子教育総務課主幹兼総務係長
鈴木琴美教育総務課主査
13. 議事の経過
以下のとおり

石垣教育次長兼総務課長事務取扱

只今より令和2年度第2回岩沼市総合教育会議を開会いたします。

はじめに、菊地市長より開会の挨拶をお願いします。

菊地市長

お寒い中お集まりいただき、ありがとうございます。本日の総合教育会議において、今抱えている課題について、御意見をいただき、今後の対策等を含めて議論してまいりたいと思いますのでよろしくお願いします。

市の現状について説明させていただきます。

新型コロナウイルス感染について、昨日の県内の新規感染者数は45人、総感染者数は1,625人になりました。岩沼市ではこれまで16人の感染者が確認されています。毎日、感染者や濃厚接触者等の発表があり、気が休まらない、油断できない状況下にあります。幸い、市内の学校や福祉施設では発生しておりませんが、これからも油断なく感染防止対策をしていきたいと思っております。再度一斉休校になれば、子どもたちに影響が出ますので、感染拡大しないよう、それぞれがしっかりと注意していきたいと思っております。国では、「新しい生活様式」を示していますが、今後、新型コロナウイルス感染が落ち着いたとしても、いつ発症するか分からないため、インフルエンザウイルスと同様の対応をしていかなければならないと思っております。国ではワクチン接種の準備態勢に入っており、地方にも受け皿づくりの指示がありました。まだ具体的なことは示されていませんが、できるだけ市民に混乱が起きないように取り組んでいきたいと思っております。今後の成り行きをしっかりと見るとともに、最悪の事態を想定した危機管理に取り組んでまいりますので、アドバイスや御意見をいただきたいと思っております。

市議会定例会が12月1日から10日の会期で開かれました。議員の方々からは、新型コロナウイルス感染症対策、ICT関係、不登校対策等、心配しているところの御質問をいただき、現状をお話させていただきました。

特にICTについては、市としてもしっかりと取り組んでいかなければならないと思っております。まずは通信環境整備を進めており、今月完成の見込みです。タブレット端末も今月中に小中学校8校の児童生徒全員分を配布できるところまでできました。ハード面が整ってきましたので、今後はそれを上手く活用するよう、先生方の御協力が必要です。活用に関しては、専門家の協力が必要だと考え、市として国に人材派遣を要請しています。世の中のICT化が急激に進んでおり、学校のみならず、市全体でもICT化が求められていますので、それに食らいついていきたいと思っております。

今日の議題として、不登校対策について出させていただきました。宮城県は全国でワー

スト 1、その中でも岩沼市は良くない状況ですので、何らかの手を打つ必要があると思われます。スクールソーシャルワーカーなどの専門家も人材不足と聞いています。市長部局と教育委員会が一体になるのは難しいことですが、学校現場の皆さんには不登校の状況を分析して改善に取り組んでいただき、市長部局ではそれをしっかり支えていく、組織として不登校対策に取り組むことを考えております。

学校の環境整備について、トイレの洋式化、エアコン設置、老朽化対策等、これまでも全力で取り組んできました。今月、トイレ洋式化が完了しました。学校は避難所でもあるために環境を早く整えたい思いがあったので、完了して良かったと思います。エアコンも全教室に設置完了しております。コロナ禍において、エアコンは重要なアイテムだと考えていますので、上手く活用していただきたいと思います。岩沼西小学校の屋内運動場長寿命化改良工事もほぼ完成、玉浦小学校屋内運動場の防災機能改修工事も終わり、環境整備は順調に進んでいます。今後は、校舎照明の LED 化を進めたいと考えています。

部活動の今後のあり方について、働き方改革の中で制約もありますが、子どもの体力づくりに結びつけられるように支援していきたいと考えています。

感染症対策につきましては、追加補正により、学校の水道を自動水洗にすること等、議会で御承認いただきましたので、今年度中に完成させたいと思います。

本日は、いろいろと御意見をいただきたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。

石垣教育次長兼総務課長事務取扱

続きまして、教育委員会を代表しまして、百井教育長より挨拶をお願いします。

百井教育長

本日は、総合教育会議にお集まりいただきありがとうございます。

学校現場は、新型コロナウイルス感染防止対策のために、行事や授業等、余儀なく変更や中止にすることが多く苦慮していますが、授業の進捗状況は順調です。1月から3月の間に臨時休業になるような非常事態のカリキュラムも検討しており、授業時数はカバーできると考えています。臨時休業の際は、タブレット端末を学習に活用することも考えています。学校環境のハード面が整ってきておりますので、今後はソフト面の充実をさせたいと考えています。特に不登校対策に力を入れており、一人一人について不登校の原因を探って対応しています。フリー登校を取り入れ、子どもたちに対して教員がはたらきかけをしながら、少しずつ改善していこうとしている学校もあります。また、感染防止対策として、教職員が毎日拭き掃除等で消毒するなど努力しております。

御意見をいただきながら、充実した教育になるようにしていきたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。

石垣教育次長兼総務課長事務取扱

それでは会議に入らせていただきますが、総合教育会議の議長は、運営要綱第4条の規定により、市長が務めることになっております。ここからは菊地市長に会議を進めていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

菊地市長

規定により議長を務めさせていただきます。はじめに、議事録署名員を指名させていただきます。今回は南館委員に署名をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

進め方ですが、まず各課長から、議題(1)、議題(2)の現状について、説明をお願いします。

石垣教育次長兼総務課長事務取扱

令和3年度重点的に取り組む教育施策について、教育委員会全体の基本方針は、いわぬま未来構想に掲げるまちづくりの柱の1つである「生涯現役で心豊かな『人』づくり」の実現に向け、教育基本方針、教育等の振興に関する施策の大綱の具現化のため、特に次の点に重点を置き、各種施策に取り組むものとしています。具体的には、

- ① 子どもたちの快適な学習環境整備及び施設長寿命化を図るための的確な修繕事業の実施
- ② ICT環境を活かしたデジタル教材の導入などによる幅広い学習機会の提供とALTや指導助手等の配置による学習支援体制の整備を図る。
- ③ 市史編纂事業最終年としてのまとめと歴史史料活用の方角付け及び原遺跡の発掘調査など文化財保護事業の推進並びに生涯学習環境と支援体制の向上
- ④ 運動施設指定管理者や大学等との連携による生涯スポーツ環境と支援体制の向上
特に部活動支援事業の充実を図っていききたいと考えております。

次に、各課より説明させていただきます。

まず、教育総務課の事業について申し上げます。

重点施策のひとつである「次世代を担う子どもの教育環境づくり」を進めるため、児童生徒が安全快適に学校生活を送ることができる教育環境の整備を推進していきます。

令和2年度は国の補助を受け大きな改修工事を行いました。岩沼西小学校屋内運動場の長寿命化改良工事は、今週、完成検査を行います。玉浦中学校のトイレ洋式化についても先日完了し、これで小中学校屋内トイレが100%洋式化に至りました。防災機能強化事業として実施した、玉浦小学校体育館天井改修工事も令和2年10月に完成しています。県の環境交付金を活用した、岩沼南小学校体育館照明のLED化は、令和2年9月に完了しました。学校ICT環境整備として、GIGAスクール構想による校内ネットワーク、端末整備も順調に進んでおります。

令和3年度において行うべき急を要する大規模な工事はありませんが、学校照明設備のLED化を進めるとともに、各校とも建物、設備等の老朽化が厳しい状況であることから、適切な維持・修繕に努めて参ります。併せて、これまで整備してきたICT機器やネットワーク及びエアコン機器など学校運営に支障がでないよう適切に管理していきます。

また、学校運営における新型コロナウイルス感染拡大防止に必要な手立てを確実に行って参りたいと考えております。

矢口参事兼学校教育課長

学校教育課の令和3年度重点的に取り組む教育施策について申し上げます。

「夢をはぐくみ、愛のある教育」の一層の充実を図るために、「夢やあこがれをはぐくむ学校づくりの推進」「豊かな人間性や社会性、健やかな心身の育成」「障害のある子どもへのきめ細やかな教育の推進」「信頼され魅力ある教育環境づくり」を重点に、創造的で特色ある学校づくりを推進していきます。

1 点目、不登校対策を中心とした児童生徒の抱える心のケアの充実です。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを配置し、専門性を活かした対応を通じ、不登校児童生徒の登校支援、不登校の兆候が見え始めた児童生徒の支援を行い、一人でも多く、児童生徒の課題解決になるよう対策を講じていきたいと考えております。また、「あいる一む」の相談体制のより一層の充実を図り、不登校児童生徒の居場所づくり及び登校支援を通しての学校復帰を進めています。

2 点目、教育環境の整備です。小・中学校指導助手、特別支援指導助手、特別支援教育支援員を配置し、児童生徒一人一人に応じたきめ細やかな指導や支援が行えるよう、指導体制を構築していきたいと考えております。また、ALTを配置し、小学校外国語活動・外国語、中学校英語の学習の充実を図ります。さらには、校内研究や研修会を通じ、ICT環境を効果的な活用を推進して参ります。

3 点目、特色ある学校づくりの推進です。学校長裁量で執行できる予算を充実し、地域に根ざした学校づくり、児童生徒の夢やあこがれを育む支援等、特色ある学校づくりができるよう推進していきます。

4 点目、「学び塾」の開催です。放課後や長期休業において児童生徒の学習の場を提供し、基礎学力の向上と学習習慣の確立に資します。令和2年度は新型コロナウイルス感染防止対策のために、時期をずらしてのスタートになりましたが、児童生徒には楽しく進んで学習する時間になっております。令和3年度も引き続き実施し、学習習慣の確立を図って参りたいと思います。

沼田生涯学習課長兼スポーツ振興課長

生涯学習課の来年度の主な事業について申し上げます。

1 点目、協働教育の推進です。学校と地域との協働教育として開催しております「のびやか教室」ですが、子どもたちの、放課後の居場所づくりという点で大切な事業と捉えております。また、コラボスクール（里山体験学習）についても、学校からの要望に答える形で、継続して開催したいと考えております。

また、岩沼に愛着を持つ人材育成事業として、郷土料理を学ぶ「ふるさとの味はらこ飯の学習」及び「松尾芭蕉「奥の細道」いわぬま二木の松俳句大会」を継続して開催できるよう必要な予算を計上しているほか、子どもたちの移動手段を確保することで、学校外学習の機会を増やすためのバス運行の委託経費なども計上いたしております。

2 点目、市史編纂の推進です。令和3年度が、平成21年度から行ってまいりました市史編纂の最終年度ということで、「通史編：近代・現代」及び「特別編：震災」の年度内刊行に向けて、調査執筆作業を進めるとともに、これまで長年にわたって収集してまいりました、歴史史料の保存活用に努めてまいります。

3 点目、埋蔵文化財包蔵地の適切な保存と調査の推進について、なんと言っても、原遺跡の第6次調査の実施です。来年度も遺跡範囲を確認する調査として、今年度の調査区のさらに西側の農地の発掘を行いたいと考えております。この事業につきましては、国から2分の1の補助があります。また11月から、亀塚古墳周辺の宅地造成開発に伴う埋蔵文化財の確認発掘調査を実施しておりますが、今年度は南側エリア、来年度は北側エリアの発掘調査を実施いたします。

4 点目、社会教育施設等の適切な管理運営については、今までの懸案事項でした市民会館の空調設備の改修工事を二カ年にわたって実施いたします。工事期間としましては、今月から令和3年6月までの7ヶ月間を見込んでおります。

引き続き、スポーツ振興課について申し上げます。

1 点目、指定管理者による体育施設の円滑な管理運営につきましては、スポーツの振興、市民の健康・体力の増進等、指定管理導入の目的が達成できるよう、市民サービスの向上等についてのチェック体制を充実させていきたいと考えております。

2 点目、スポーツ施設の整備と活用の促進について、指定管理者と連携し、利用者が安全・安心に施設を利用できるように、適切な改修・修繕に努めるとともに、エアポートマラソン・市長杯総合スポーツ大会等の継続的な開催に努めます

3 点目、部活動支援事業の定着及び促進については、指定管理者及び仙台大学との連携を継続し、部活動支援事業において、運動部・文化部ともに種目を増やしていくと同時に、指導者も充実させ、今後の新しい部活動のモデルとなるように取り組んで参ります。

4 点目、市制施行 50 周年記念事業について、3 事業の開催を予定いたしております。

①健幸大使：大久保剛志選手によるサッカーフェスティバル等の交流事業

②第 30 回いわぬまエアポートマラソンゲストランナーの招請

③2021 年度、巡回ラジオ体操・みんなの体操会

以上、令和 3 年度重点的に取り組む教育施策についての説明をさせていただきました。

矢口参事兼学校教育課長

議題(2)教育委員会の課題について、不登校対策の現状をお話させていただきます。

まず、岩沼市立学校の不登校児童生徒数の出現率についてです。ここで示す不登校数とは、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因や背景により、登校しない、したくてもできない状況にあるために、年間 30 日以上欠席した者のうち、病気や経済的理由による者を除いた数を指しています。計上すると、状況が好転しても減ることはない数値です。平成 30 年度の値は、市小学校 1.08%、県 0.81%、国 0.71%、市中学校 5.44%、県 4.87%、国 3.65%、令和元年度 市小学校 1.43%、県 1.02%、国 0.83%、市中学校 7.04%、県 5.10%、国 3.94%、令和 2 年度 11 月末現在は、市小学校 1.07%、市中学校 5.28%です。

今年度、9 月 28 日以降の欠席状況は、不登校の児童生徒だけでなく、欠席数が 30 日に満たないものの不登校傾向にある児童生徒を含み、日々 54 名から 74 名の間で推移しています。各学校では、不登校のきっかけ、不登校の状況、当該児童生徒を含む環境、不登校が継続している要因、一人一人にあった接し方を整理し、これまで対策を立て、はたらきかけて参りました。スクールカウンセラーとのカウンセリングや、スクールソーシャルワーカーと連携して関係諸機関との更なる連携を構築する等してきましたが、状況の改善には至っていません。現在は、管理職による家庭訪問、より多くの教職員が当該児童生徒と積極的に関わる仕組みづくりを対策に加えているところです。

続いて、いわぬま心のケアハウス「あいる一む」の令和元年度から 2 年度にかけての状況です。申請が 25 名に対し、その後学校復帰に至ったのが 3 名、高校進学 3 名、継続通所 12 名、通所検討中 3 名、未定 4 名となっています。仮通所・相談が 3 名です。

あいる一むの成果としては、「安心して過ごせる。」「家庭以外の居場所を得ることができた。」「友人や支援者と接し、交流・活動することによって、諸活動への意欲を少しずつもてるようになった。」と居場所づくりになっています。また、コミュニケーション能力の向上やいつでも相談できる場所になっています。あいる一むに行くようになった、学校に足が向くようになった、という改善に向かった児童生徒は、令和元年度の結果 14.8%となりました。しかしながら、不登校児童生徒数の出現率が増えており、日々の欠席者数も先ほどの数値を推移しています。

次年度の対策としては、当該児童生徒の繋がりを保つことを基本方針とし、その子にあった接し方、管理職による家庭訪問、学級担任以外の職員が積極的に関わって当該児童生徒と接触していこうと考えています。また、あいる一むの支援体制の強化も考えており、心の相談員2名の配置、スクールソーシャルワーカーの追加支援について予算要求をしております。

また、各学校で新たな不登校児童生徒が出ないように、各校の実態を踏まえた具体的な取組を実践していくことも重要課題であると考えています。

菊地市長

各課からの説明について、御質問はございませんか。

各委員

(無し)

菊地市長

各委員さんより御意見をいただきたいと思います。氏家委員、お願いします。

氏家委員

不登校の要因は、子どもにとって直接行動に結びつくようなことが大きいように思います。登校したい気持ちが湧く環境は、友達関係や先生との関係、部活動ということが身近なこととして挙げられますが、不登校のお子さんにとって、学校に来たくない1番の理由は無気力であるとお聞きしました。無気力が気力に変わるような何かが学校になればならないのではないかと思います。部活だけでも給食だけでも、まずは登校し、登校したい理由が後に明確になってくると良いように思います。先生との関わりが楽しい、授業が楽しい等、学校に行く目的が見つけられないお子さんが多いように思います。

今の子どもたちは自分の中に、将来のため、未来のために「登校しなければならない」という気持ちが少ないのかもしれませんが、その気持ちが何によって生まれるのかは難しいことですが、親も子どもにはたらきかけることが必要です。「つらいなら行かなくていいよ」ではなく、学校に行くことでその子が見つかるものを、皆で関わって探すことが必要だと思います。それでも学校に行けないお子さんには、スクールソーシャルワーカーなどの専門の方や学級担任以外の先生方の力も加え、精神面や環境面のフォローを手厚くすることがより一層大事になると思います。

菊地市長

要因を見極めることはとても難しいことなのだと思います。一人一人に寄り添い、アプローチしていくしかないと思いますが、学校の皆さんには、それぞれ考えていらっしゃることをさらに一歩踏み込んでいただくよう期待しています。親御さんにも積極的に関わっ

てほしいと思いますし、学校環境を良くすることも大事です。無気力な子にはできるだけ興味が湧くよう、きっかけづくりができると思いいます。

南館委員、お願いします。

南館委員

不登校の子どもたちが全国的に増えており、やがて不登校が引きこもりに繋がると言われています。義務教育を終えた15歳から39歳の、働かない・働けない引きこもりが50万人もいて、毎年増えているそうです。これまでもスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー等の御努力により再登校するようになった子もいますが、それ以上に不登校の子が増えています。対策がすぐ効果として現れるのは難しく、市としても、これまで一生懸命取り組まれています。数字は悪くなる一方です。

抜本的なやり方を改めて考える必要があるように思います。森田直樹先生の著書によると、「不登校は1日3分のはたらきかけで99%解決する」という夢のような話が書かれています。その手段は理にかなっているように思いました。学校や先生ではなく、親が子どもにはたらきかけるものです。子どもは自信をなくしているために学校に行けない状態なので、親が子どもの良いところを見つけ、毎日3分間褒め、自信をつけさせ、学校に行きたいという気持ちに持っていきそうです。実績もありますので、システム化し、その方法を親に指導することを検討してはいかがでしょうか。森田先生をお呼びして、講習会を開催することも良いように思います。オンラインを活用して、多くの方に聞いていただくと効果があると思います。

菊地市長

不登校の出現率が、宮城県は全国でワースト1です。数年前から県でも検討していますが、特効薬はない状況です。難しいことですが、宮城県の底上げになるような対策を考えていかなければなりません。

小林委員、お願いします。

小林委員

森田先生のおっしゃることは納得することが多く、子どもが自信を持って、将来の希望を持つことはとても大事だと思います。ただ、「親が」となると、親への期待過剰になり、親が不登校になる可能性もあると思われます。

不登校の要因は多岐にわたりますが、今、何故増えているのか疑問です。私が教員のと きにも、不登校の子はいましたが、こんなに多くありませんでした。退職後10年間において、社会情勢が影響しているのか、特に宮城県・岩沼市に関わる変化があったのだろうかと考えています。不登校に至った子どもたちの個々の原因に、何か共通の特徴はないか

知りたいと思います。そのためには、家庭にはたらきかけ、じっくり話し、関わっていく中で探せないかと思いますが、そこには人の力が必要です。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーといった専門的な方が関わることが望ましいですが、人材不足の状態なので、下支えをしてくれる人がいて、専門的な人に繋ぐといった仕組みができないかと思います。親や子どもと話している中で専門家に相談した方が良いと思われることを見つけ出す、ということから始められればと思います。

不登校は、夢や希望を持ってない状態にいると思います。夢や希望は、社会と関わることで試行錯誤しながら、ふと見つけるものだと思います。学校教育は、社会との繋がりを持つ力をつけていくものですので、学校に来て、周りの人たちと繋がりながら、夢や希望を見つけていくことを分かってほしいと思います。

次年度の対策として示されたことは、その通りだと思います。ただ、管理職による訪問は、一長一短のように思います。校長が来ることをプレッシャーに感じることもあるのではないのでしょうか。管理職は、コーディネーターやアドバイザーを担ってもらいたいと思います。人を育てるのは人です。ぜひ、人の配置を手厚くしていただきたいと思います。

菊地市長

スクールソーシャルワーカーの配置については、宮城県も現状を把握していて、支援を継続するという話をいただいています。

佐藤委員、お願いします。

佐藤職務代理者

あるアンケートによると、子どもの犠牲になりたくない考える親が年々増えているそうです。昔は、次の世代を養育し、社会の中で生きる力を身につけさせることを親の使命として考えていたように思います。親は親自身の社会生活を送りながら子どもを育てる、それで良いのではないかと、価値観が変わってきているようです。親が子どもを教育するのではなく、お金をかけて子どもを預けて教えてもらうというように、教育を代償行為で済ませることが社会全体の傾向としてあるように思います。子どもと親が一緒に何かする、子どもが親の一生懸命な姿を見ることが少なくなっています。その結果、年齢に応じた発達課題が分からなくなり、社会性を身につけるチャンスを失ってしまいます。

不登校の原因の 25%が子ども自身の無気力、神経症や発達課題によるものが 16%～26%、その他、学校生活トラブル、非行、学業不振、精神未熟、発達障害などが原因として上げられます。また、家庭環境トラブルの中で学習意欲をなくしていることも多いようです。かつては、教育を受けるチャンスは学校にしかなかったのですが、今では教育を受ける機会が多様化しています。学校だけが教育を受ける場ではないと考える親もいるでし

よう。学校の役割や年齢に応じた課題について、もう一度考える必要があると思います。今、教育を受ける目的意識を喪失し、代償行為で済んでしまっている時代です。公教育はどこまでカバーすべきか考える時かと思います。親の課題、社会全体の教育に対する一体感、子どもたちに年齢に応じた発達課題を提案できるか、ということを見直さないと不登校対策の手の打ちようがないように思います。

菊地市長

今の子どもたちは、幼児の頃からタブレットをいじり、欲しい情報がすぐ手に入る環境にいます。社会もインターネット中心という考え方のために、学校の役割が理解されない部分があるかもしれません。ICT活用と対面授業を上手く行わないと、学校教育そのものが成り立たないこともあるように思います。今は、これからの教育の過渡期にあるように思います。

百井教育長

学校教育の基本は、人と人との関わりです。不登校は、そのことが切れてしまっている状況ですので改善していかなければなりません。その環境作りが私たちの役割だと思いますので、子どもたちの居場所、子どもたちが「わかった」「できた」と感じる体験、友達や教師との交流など、心安まる環境を作ることが大事だと思います。その中で、時代を担うような目的やねらいを持てるような子どもたちを育成したいと思います。

医療機関、児童相談所、福祉分野、幼稚園、保育園等、専門機関との関係を持っていきたいと思いますし、親御さんには子どもが規則正しい生活をするように話しています。不登校の子どもたちは朝起きるのが遅いなど、生活リズムが乱れていることが多いです。家庭が責任を持って、規則正しい生活をし、その中で学校と関わっていくことが大事です。学校では、不登校児童生徒の家庭との繋がりを切らないよう、定期的に連絡をしています。個々の不登校原因を教育委員会と学校で分析し、検討しています。結果がなかなか出ずに苦しいところですが、地道に続けていきますので御支援いただければと思います。

人と関わりを持って社会生活を営むことが人だと思います。学校が基盤となるよう努力していきますし、岩沼は教育環境が整っていますので、これからは内容を充実させていきたいと思っています。本日いただいた御意見を参考にしていきたいと思っています。

菊地市長

宮城県から今後どのような策を出されるのかも注目していきます。各自治体の教育委員会に全て任せるのではなく、県で取り組むことも大事です。私も会議がある毎に、スクールソーシャルワーカーや子どもの心のケアハウスの予算を切らないように要望していきたいと思っています。

佐藤職務代理者

子どもたちに将来の夢や希望を持たせる教育が大切です。夢を持って努力することを分かりやすく伝えることが必要だと思います。カンフル剤と対処療法だけではなく、戦略がないと、この問題は解決しないように思います。

菊地市長

現場は厳しい状況だと思いますが、粘り強くやるしかありません。子どもが無気力な中、目標を持たせることは大変だと思います。

佐藤職務代理者

親が子どもに「学校に行って、しっかり先生の話聞いてこい」と一言言ってくれば良いと思います。そのような環境を作っていくしかないように思います。

小林委員

親にゆとりがないのでしょうか。親がしっかりしないといけないということは共通していると思います。親自身が希望を持っているか、親が子どもに期待しているか、といった親の心のあり方が見えないように思います。

菊地市長

親の働き方も様々です。生活そのものも以前と変わってきていますし、勉強する環境も変わってきているように感じます。

南館委員

不登校の子は自信を持っていないために、「何も考えない方がいいや」と逃げているように思います。親が責任を持って子どもを褒め、やってみようかなという気にさせていく必要があります。1回叱ったら2回褒めて欲しいです。今の親を見ていると、挨拶もままならないような人がいます。しかし、親が子どもを心配しているのは確かで、真剣に悩んでいます。親にアドバイスすれば、実行すると思いますので、試す価値はあると思います。

菊地市長

無気力と魅力あるということは、紙一重だと思います。学校の魅力はどのように出していけば良いのか、思うことがあれば教えてください。

氏家委員

親として、子どもへの接し方を考えなければいけないと思います。自分の生活を顧みたときに、学校に行ったらこれができる、ということがあったと思います。また、昔は学校に行く以外の選択肢がありませんでした。今の子どもたちには選択肢が多様にあるのだと思いますが、今でも子どもが迷わないで済むような普遍的なものが必要なのではないかと思います。この環境でこんなことをしてみよう、と思える先生方に出会えると幸せではな

いかと思います。

菊地市長

iPad を上手く使うことで、子どもと先生が意思疎通するなど、学校の魅力を創出するアイテムになる可能性があると思います。今がチャンスなのかもしれません。様々な発想力を持った人に手伝ってもらうことで、魅力を見出せるようになると思います。子どもたちが大人になったときに社会との繋がりを切らないようにしなければなりません。

百井教育長

2市2町の教育長が月1度集まって話し合いをしています。情報交換すると、どこの状況も同じです。沿岸部の学校に不登校児童生徒が多い傾向があります。魅力ある学校にするにはどうすれば良いか、どのような体験をさせようか、様々な工夫をしていますが、答えは出ず、模索している状況です。

経験上、3世代同居家庭には不登校の子が少ない傾向があります。親は叱っても、おじいちゃん、おばあちゃんは無条件で子どもを抱っこします。それで安心感を与えられるのだと思います。学校でも家庭でも安心感を与えられることが大事かと思います。

菊地市長

その他、ということで、今日の新聞記事に小学校を35人学級に移行していくという記事がありました。我々のところに影響があるとすれば、どのようなことが考えられますか。

百井教育長

教室数が足りなくなることが考えられます。それから、県教育委員会の問題になりますが、人材の確保です。今、教員のなり手が少なくなっていることが課題になると思います。ただ、35人学級になっても、対応は充分可能です。学校の職員定数が増えるので、私たちにとって朗報だと思います。

石垣教育次長兼総務課長事務取扱

教室数は、35人学級で計算すると、今のところ、不足することはありません。これからの入学者数は減少傾向です。玉小は丁度、他は余裕のある状態になります。

菊地市長

35人学級は、来年度から2年生、3年生と順次拡大していくようです。これから課題が出てくると思われますが、しっかりと対応していきます。

百井教育長

35人を超えると2クラスに分けるので、これより小規模では学級運営が成り立ちません。35人は丁度良い人数だと思います。今後は30人前後の学級になってくると思います。

菊地市長

本日の会議はこれで終わりたいと思います。

石垣教育次長兼総務課長事務取扱

熱心な御議論、お疲れ様でございました。

以上をもちまして、令和2年度第2回総合教育会議を閉会させていただきます。

(午後4時25分閉会)

この議事録の作成者は、次のとおりである。

教育総務課主幹兼総務係長 山下 真理子

教育総務課主査 鈴木 琴美

上記記録の正確なることを認め、ここに署名する。

令和3年2月4日

議事録署名人

南館公雄